

平成30年度実施施策に係る政策評価書

別紙 2

(環境省30-27)

施策名	5-6. 東日本大震災への対応（自然環境の復旧・復興）					
施策の概要	地域の自然資源等を活用した三陸復興国立公園への再編成、被災した公園事業施設の復旧や復興のための整備に取り組む。					
達成すべき目標	三陸復興国立公園の創設を始めとした様々な取組を通じて、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域のくらしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興する。					
施策の予算額・執行額等	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	
	予算の状況（百万円）	当初予算（a）	3,132	2,024	1,410	1,299
	補正予算（b）	-	-	-	-	
	繰越し等（c）	▲ 1,288	▲ 450	（※記入は任意）		
	合計（a+b+c）	1,844	1,574	（※記入は任意）		
執行額（百万円）	1,471	1,349	（※記入は任意）			
施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）	東日本大震災からの復興の基本方針（平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定） 「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針（平成28年3月11日閣議決定）					

測定指標	三陸復興国立公園（24年度までは陸中海岸国立公園）の利用者数の推移（千人）	基準値	実績値					目標値	達成
		23年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2年度	-
		458	2,520	3,380	2,850	集計中	集計中	6,994	
	年度ごとの目標値	-						-	-
	三陸復興国立公園内の利用拠点（集団施設地区）の年間利用者数（千人）	基準値	施策の進捗状況（実績）					目標値	達成
		17-21年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2年度	-
		2,975	1,850	1,776	1383	集計中	集計中	2,975	
	年度ごとの目標値	-						-	-
	みちのく潮風トレイル踏破認定証の発行数（人）	基準	施策の進捗状況（実績）					目標	達成
		-	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	-	-
		-	1,151	1,588	-	-	-	-	
	年度ごとの目標	-						-	-
CPUE（一つのわなで捕獲できる捕獲数（イノブタを除く））の減少	基準	施策の進捗状況（実績）					目標	達成	
	-	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	-	-	
	-	0.070	0.031	0.042	0.038	0.018	-		
年度ごとの目標	イノシシ等を安全かつ効率的に捕獲し被害が軽減する生息密度に抑える						-	-	

目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり
	<p>東日本大震災からの復興の基本方針の策定を受け、平成24年5月に、「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」を環境省として策定し、当該ビジョンに基づき、三陸復興国立公園の指定等の7つのグリーン復興プロジェクトを進めている。</p> <p>(判断根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年5月に創設した三陸復興国立公園については、平成27年3月に南三陸金華山国定公園を編入した他、利用施設の復旧などを実施した。国立公園利用者数は震災以降増加傾向であったが、平成28年度は減少に転じている。国立公園の利用者の増加を図り、本取組が観光拠点の復旧・復興に貢献するよう一層取組を推進していく。

評価結果		<ul style="list-style-type: none"> 当該事業において、三陸地域の重要な観光資源である旧陸中海岸国立公園の主要な利用拠点等の施設を復旧することはできたが、三陸復興国立公園への編入地域や「みちのく潮風トレイル」については、今後も整備が必要である。 三陸復興国立公園の利用拠点の利用者数はその年の連休の配置や天候に大きく左右されるため、年ごとに増減が大きく、平成27、28年度は2ヶ年連続で減少傾向となった。今後、みちのく潮風トレイルの全線開通（R1年6月）等を踏まえ、普及啓発を強化する予定であり、利用拠点における利用者数増加を図る。 帰還困難区域における野生鳥獣の捕獲については、平成25年度より開始し以後毎年度、被害の低減を図るため安全かつ効率的な捕獲に努め捕獲努力量として、のべわな日数（捕獲実施日数×わなの数）を増加（平成29年度：日数：約7ヶ月、わな数：100基→平成30年度：日数：約10ヶ月、わな数：301基）させてきている。
	施策の分析	<ul style="list-style-type: none"> 三陸復興国立公園の利用の回復・増進を図るため、防災上の配慮を行いつつ被災した公園施設の再整備や『みちのく潮風トレイル』の新規整備を行っているところであり、施策の目標達成に寄与している。 イノシシ等による被害の低減を図るために、対策の一手法であるイノシシ等の捕獲について、安全かつ効率的に実施することが必要であり、捕獲努力量を高めており、CPUEは減少傾向にあることから、施策目標の達成に向けて寄与している。
	次期目標等への反映の方向性	<p>【施策】 三陸復興国立公園の利用の回復・増進を図るため、防災上の配慮を行いつつ引き続き被災した公園施設の再整備や『みちのく潮風トレイル』の新規整備を実施していく。</p> <p>【測定指標】 三陸復興国立公園内の利用拠点（集団施設地区）の年間利用者数（千人）を測定指標として利用していく。</p> <p>【施策】 帰還困難区域内等においてイノシシ等の野生鳥獣を捕獲することにより鳥獣等の被害を軽減することは、帰還後の住民の生活環境を整備することに直結し、東日本大震災からの復興に寄与するため取組を実施していく。</p> <p>【測定指標】 イノシシ個体数の削減と被害の軽減を図るために、イノシシの生息密度の評価指標の一つであるCPUE（一つのわなで捕獲できる捕獲数）を測定指標として利用していく。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	—
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	自然公園等利用者数調
---------------------------	------------

担当部局名	国立公園課 自然環境整備課 野生生物課	作成責任者名 (※記入は任意)	熊倉 基之 中島 尚子 山口 富夫	政策評価実施時期	令和元年8月
-------	---------------------------	--------------------	-------------------------	----------	--------